

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説2100日
県政の革命児!

県議会だより

後藤かつみ

vol.32

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com
<http://www.ccrgoto.com/>



パネルを用い、まちづくりと一体の視点での「公共交通ビジョン」の策定を提言

増田レポートの「地方消滅」など、人口減少が「悪」という見方が先行していますが、一方で日本の適正人口は八〇〇〇万人とも六〇〇〇万人とも言われるように、交通渋滞、通勤ラッシュ、狭いマイホームなど、これまで日本社会が抱えてきた問題の解消という意味では、人口が減ること自体は良い側面もあります。むしろ、「処方箋」さえ間違わなければ、経済的な豊かさから、人・自然との触れ合いやゆとりといった、人間らしい新たな豊かさを得るチャンスとも言えるのではないかと後藤は考えます。

人口減少は悪ではない

人口減少社会待ったなし！タブーに切り込む改革論議

将来へ責任先送り？インフラの長寿命化策に警鐘

高度成長期以降、せつと作ってきた橋やトンネルと言ったインフラが一気に寿命を迎え、笹子トンネルの崩落事故のように信じ難い事故が起きる時代を迎えているにも関わらず、人口減少による税収減により財政的に対応しきれないという問題を抱えています。しかし、後藤は、新設よりも維持管理予算を優先するよう公共事業のあり方を転換し、老朽化したインフラを丁寧にメンテナンス(長寿命化)して将来に引き継いで行けば、自然と走る車は減るのだから、財政難の中でも将来世代が豊かに道路等のインフラを利用できると提言し続けています。

県も「長寿命化計画」を策定し、取り組んでいるのですが、大きな問題は、「長寿命化」により手品のように維持管理・更新費を縮減することができ、結果としてこれまでどおり道路などの新設予算が確保できるという内容であることです。例えば「橋梁」では、本来なら維持管理・更新費が2060年までに6400億円かかるところを、「長寿命化」により1200億円に縮減！ 実に

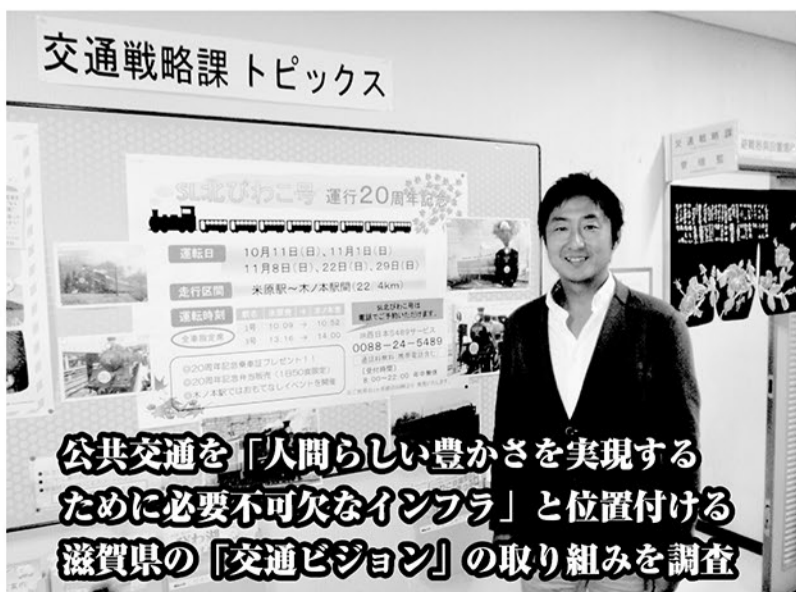


群馬県が参考にすべき点の多い、長野県の「総合交通ビジョン」の取り組みを調査

5200億円も削減できるといった驚きの内容となっています。実は、「2060年まで」というのが手品のタネであり、長寿命化により40年延命させる計画なので、橋梁の多くが寿命となり更新費が集中する時期を2060年よりも「先送り」するだけで「縮減」ではないのです。後藤は、このような将来世代に対し無責任な計画ではなく、今から「新設」よりも「維持管理」を優先する公共事業へと転換すべきことを厳しく指摘しました。

本格的な「公共交通ビジョン」の策定を提言

もう一つ「処方箋」の必要な課題として、マイカーの輸送分担率93%の群馬県が、これから本格的な高齢化時代を迎える中で、買い物や医療機関など生活のための移動手段の持続可能性が脅かされる事態を迎えています。後藤は、まさに公共交通が再評価される時代を迎えており、群馬県として本格的に公共交通の再建に踏み込んでいくための「ビジョン」を策定すべきであると、他県事例の調査内容も紹介しつつ提言しました。事例として、「まちづくり」と一体の視点で「公共交通ビジョン」を策定している長野県を紹介し、まちづくりと同様、公共交通政策も「市街地」「郊外」「山村部」では全く視点が違うことを踏まえるべきと指摘。例えば、市街地では自動車の流入を抑制し、公共交通中心の「ウォーカーブル」な環境を作る。郊外では市街地との円滑な移動のためパークアンドライドやバス専用レーンを整備する。中山間地域ではデマンドバス等により「生活の足」を確保する。といった形でまちづくりとリンクする形でビジョンを整理すべきと提言しました。



公共交通を「人間らしい豊かさを実現するために必要不可欠なインフラ」と位置付ける滋賀県の「交通ビジョン」の取り組みを調査